

2023年6月30日

各位

三井住友信託銀行株式会社

ブルーローンの契約締結について
(日清丸紅飼料株式会社)

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、日清丸紅飼料株式会社(代表取締役社長:宮内 和広、以下「日清丸紅飼料」)との間で、ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)(※1)等が定めた「グリーンローン原則」および国際金融公社(IFC)(※2)が定めた「ブルーファイナンスガイドライン」に則したシンジケーション方式の「ブルーローン」のアレンジャーに就任し、融資契約(以下「本件」)を締結いたしました。

ブルーローンは、環境改善効果に資する事業の中でも、SDGs 目標6「安全な水とトイレを世界中に」、またはSDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」等に該当し、「持続可能な経済成長、海洋関係者の生活向上と雇用創出、海洋資源の保全」を目的とした事業(ブループロジェクト)に要する資金を調達する際に用いられる融資です。調達資金の使途がブループロジェクトに限定されるほか、資金の追跡管理や融資実行後のレポートを通じ、透明性が確保されるなどの特徴を有しています。

本件は株式会社日本格付研究所(代表取締役社長:高木 祥吉)より、グリーンローン原則およびブルーファイナンスガイドラインへの準拠性およびSDGsへの貢献度について、ブルーローン評価「Blue 1」(※3)を取得しています。

当社では、ブルーローンなどのサステナビリティに関するソリューションの提供により、SDGs達成に資するお客さまのさまざまな事業活動を支援するとともに、お客さまの中長期的な企業価値の向上に貢献することを引き続き目指していきます。

<日清丸紅飼料について>

日清丸紅飼料は、「食の絆を未来へ」のキャッチコピーのもと、『食文化の一翼を担う企業として、安全、安心で高品質な飼料及び関連商品の生産・販売を行うとともに、コンプライアンスを徹底し「食品の安全性の確保」に寄与する。また、経済合理性の追求とサービスの提供を通じて顧客とともに繁栄することにより、常に成長志向を持ち続け、信頼性の高い企業として「社会に貢献」する』ことを企業理念としています。

また、「水産資源の保全」をマテリアリティの1つとし、環境負荷を低減した配合飼料の生産による「水産資源の乱獲や海洋汚染の防止」と「栄養価が高く質の高い養殖魚の育成」によって、持続可能な海洋資源保全および食料の安定供給に寄与することを目指しています。

<本件(シンジケートローン)の概要>

契約締結日	2023年3月24日
アレンジャー兼エージェント	当社
資金使途(ブループロジェクト)	水産配合飼料生産工場の建設資金
貸付人(五十音順)	日本政策投資銀行、農林中央金庫、 三井住友銀行、三井住友信託銀行

<資金使途(ブループロジェクト)の概要>

日清丸紅飼料は、本件で調達した資金を、木曾岬水産工場(仮名称)(三重県)(以下「新工場」)の建設資金に充当いたします。新工場は、生餌の代替としての投入が期待される配合飼料であるエクストルーデッドペレット(以下「EP」)の生産をメインとする予定です。

日清丸紅飼料は、EPの製造能力増強により水産用飼料の配合飼料化を促進し、給餌ロスの割合が高い生餌の使用量削減や、海洋の富栄養化防止、希少な魚類の保全などの環境改善に貢献していく予定です。

(※1) ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)

欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会であり、60ヶ国以上に属する700以上の機関が加盟しています。

(※2) 国際金融公社(IFC)

途上国の民間セクター開発に特化した世界最大の国際開発機関であり、途上国の民間セクターの成長を促すことで、経済の発展と人々の生活水準の向上を図っています。

(※3) グリーンローン原則およびブルーファイナンスガイドラインへの準拠性およびSDGsへの貢献度についてのブルーローン評価

株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以上